

2001年12月25日（火）講演

# IBAエムシャーパーク・プロジェクト に学ぶ地域再生

---

滋賀県立大学 環境科学部  
教授 澤田 誠二

## IBAエムシャーパーク・プロジェクトの概要

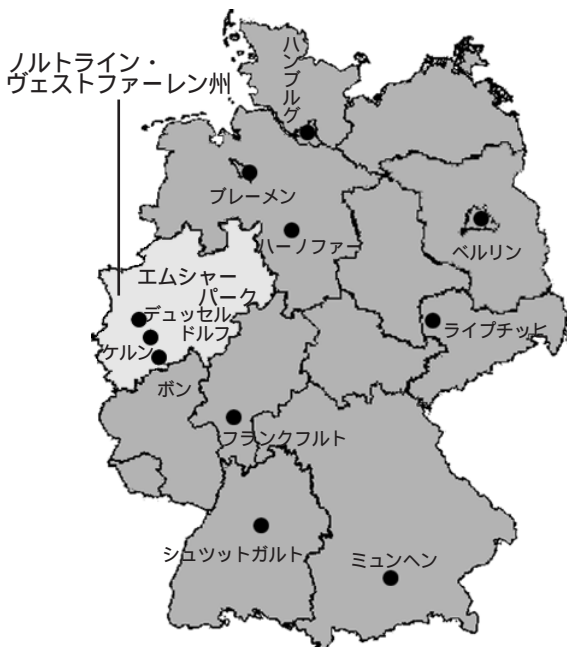
IBAエムシャーパーク・プロジェクトは、ドイツのルール工業地帯で実施されました。

ルール工業地帯は、ドイツが国家として形作られたプロシアの時代に、石炭等の豊富な地下資源を基盤に、産業植民地として開発された地域です。現在でもルール工業地帯の山間へき地では、ドイツ語がほとんど通じず、むしろポーランド語のほうが通じる場所もあるくらいです。また、日本でもつくば学園都市は、落雷等、自然条件が悪く、東京近郊でありながら広大な土地が残ったわけですが、ルールも同様で、当時は連邦国家の中でも人口の少ない土地でした。

それが英国で起こった産業革命が大陸のベルギーに伝わって、さらにルールへと展開し、百数十年前から開発が始まったわけです。

その結果、日本でいう京浜工業地帯や北九州工業地帯と同様、第一次産業活動のために、著しく環境破壊が進みました。これを総合的な観点で再開発し、新しい時代の人の生活にふさわしいものに転換しようというのが、IBAエムシャーパーク・プロジェクトの概要です。

IBAエムシャーパークの対象地域は約800平方キロメートル、16の自治体を含みます。10年かけて、



自治体の合意形成を行いながら、産業革命で破壊された緑の水のネットワークの再構築を目指しました。専門的に言いますと、道路や鉄道、運河で分断されたビオトープやバイオロジーのシステムをつなぎ直し、水と緑のネットワークを取り戻すということです。そこでまず基礎的な環境づくりを行い、次いで仕事場や住宅を整備したわけです。

日本では地域整備公団等の組織がかつて行っていた、あるいは行おうとしていた仕事に非常に似ていますが、IBAエムシャーパーク・プロジェクトが注目されているのは、10年限定の組織を作り、実施したという点なのです。

## エムシャーパークの地誌的バックグラウンド

エムシャーパークを上空から見ると、日本の都市と似ており、環境がかなり人工化されていることがわかります。

エムシャーパーク・プロジェクトの対象地域は環境問題では先進のノルトライン・ヴェストファーレン州にあります。エムシャーという名前は、エムシャー川からとられたものです。近くにルール工業地帯の元になったルール水系があり、良質で豊富な水を供給しています。日本にも輸入されているドイツの『dab (ダブ) ビール』は、ルールの水などで作



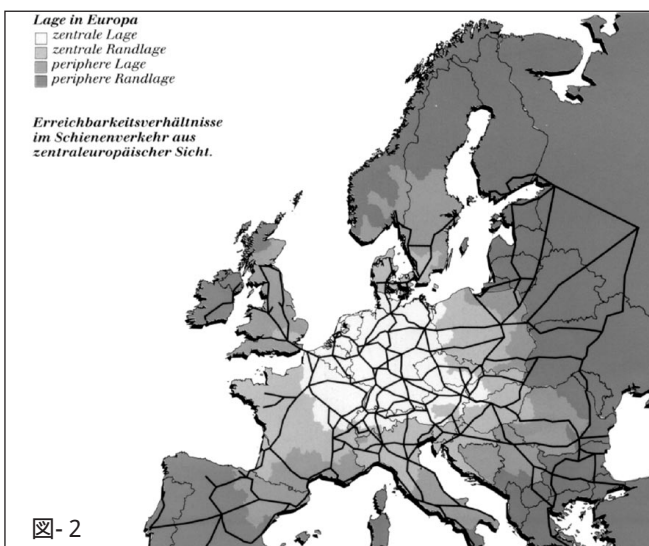
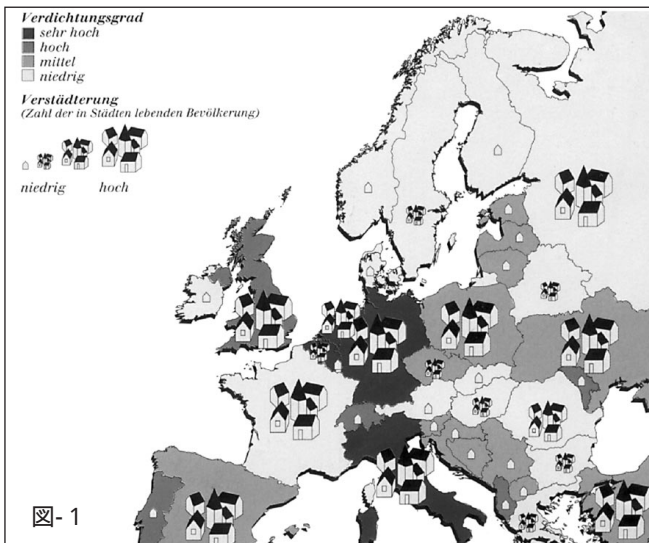
左側を流れるのがライン・ヘルネ運河。  
中央を上下に流れるのがエムシャー川。

っています。

一方、エムシャー川は、その昔、海底に沈んでいた場所が隆起し、形成された北方のミュンスターランドを流れています。隆起すると、海底の砂がそのまま持ち上がり、真っ平らな地形になります。エムシャー川はこのような平原を流れているため、ルール川と違い、自然状態では極めて蛇行した川でした。そこで、効率よく水を流すため、河川改修を行い、真直ぐライン川へ注ぐよう、人工的に作りかえられました。

次に、EU統合の際、各国に配付された地図を元に、ヨーロッパにおけるエムシャールパーク・プロジェクトの位置付けを見えます。

図 1 は都市化の密度の国別表示です。どれだけ住む家が建っているかを現わしています。図 2 は鉄道ネットワーク図です。ベルリンは、モスクワ、



サンクトペテルブルグ等に近く、東ヨーロッパのゲートウェイになっているのが良く分かります。

図 3 は工業による環境破壊が著しく進んでいる地域を示しています。図 4 はEC政府による構造改革対象地域を示しています。

第二次世界大戦直後、ヨーロッパは産業活動が活発になって、富の蓄積ができましたが、これを国単位で使うのではなく、ヨーロッパ石炭鉄鋼連盟等の組織のもとに一カ所に集め、第一次産業化による疲弊地域に投入し、再生することを行っています。これが「構造改革対象地域」です。例えば、フランス国境に近いスペインのビルバオ地区でも環境改善の資金投入が行われています。ドイツは経済的にそれなりに発展していますが、エムシャールパーク地域も対象となっています。

